

模擬授業研究会の斉藤メモ(2019年11月11日)

授業者：〇〇

範囲：現代の民主政治と社会

主な感想・代案

- 授業を行う際の堂々とした話し方はとても良いと思いました。民主主義の不合理さを体験させて考えさせようとする試みも意欲的だったと思います。その上で、二点、論点を提供したいと思います。

【この授業の狙いは何か？】

- 何人かの感想にも拳がっていたように、〇〇君の授業は、多数決の不合理さを考えさせる内容にやや偏りすぎている印象を受けました。いわば体験の後の振り返りの時間がもう少し欲しいです。そうしないとやはり何のための話し合いなのかが見えなくなる気がします。

→ 「私なら、民主主義は平等なのか？」という問いを考察する上で、アクティビティを終えて不安がたまりかけているところで、後半に、君主制との比較などをさせる場面を持ってきます。それによって、「民主主義は平等ではないが、まだマシな制度かもしれない」という点を生徒に実感させることが可能かと思います。

【民主主義＝多数決なのか？】

- 主に内容に関して、この授業内容だと、民主主義＝多数決とってしまうように感じる懸念を感じました。多数決というのは制度としては投票もありますが、そのほかにも人々の意見を反映する仕組みや工夫がたくさんあります。その他、皆で話し合うことを「民主的」と言ったりするように、自分たちのことを自分たちで決める自治意識の表れとしても表現されることもあります。また、投票の決め方一つにしても、少しルールを変えれば結果が変わったりもします。そのため、そういった点をフォローする場面があるのが望ましい。
- 最後の発問で「多数決は民主的なのか？」という発問を私なら用意します。それによって、「民主的とは何？」ということを生徒自身が問い直すチャンスになるからです。

【コラム】理論と実践の接点

「民主主義を教える教師が一番非民主的である」という話は、イギリスの教科書に出てくるエピソードです。民主主義が大切だ！大切だ！と教師は言うけど、あなたの振る舞いは民主的なの？という話です。

カリキュラムの研究では、「隠れたカリキュラム」という考え方があります。教師は教育内容を単に教えているだけでなく、生徒と教師のかかわり方や日頃の振る舞い方を通して、生徒に多くのことを教えている。つまりそこには、教科書内容のような見えやすいカリキュラム以上に、「見えないカリキュラム」がある。私は、民主主義を教える有効な方法として、その授業自体が皆で作り上げていくべき、あらかじめの答えのないものだとメッセージを発することが良いのではないかと思います。 →参考文献 1

板書に関して、もう少し構造的に作れると良いと思います。例えば、以下のようなモデルも示されています。参考にしてみてください →参考文献 2

【参考文献】

- (1) ガード・ピースタ『民主主義を学習する』
- (2) 青柳慎一『中学校社会科 授業を変える板書の工夫 45』



問題解決的学習過程の板書構成のイメージ例